

随想

情報の奔流 何を知るかを選ぶ時代

(株)PPQC研究所 加藤 宏光

《随想》のテーマは、その時々勝手気儘に決めていく。そうはいっても、資料無しに書けるほど有能ではない筆者は、おりに触れて『これは...』と思つたニュースや情報を手元に貯めておく。そういつた資料がいつか日の目を見る訳ではない。

たまたま、今年(令和五年)三月に手元にまとめたファイルがあつた。これらには、その時々『これは!』と思つたニュース・情報がある。今年三月、近い過去であるが何だか遠い気もするこの情報群を、いままとめて見てみることにした。

今年三月は、コロナ騒動が明けて間もない頃である。いま振り返ると『何で大騒ぎしたのか...』と思われる向きも多いことであろう。

そもそも、新型コロナと騒いでも「所詮は鶏コロナウイルス

ス(I Bウイルス)の親戚、サイエンスレベル(医師)と社会の指導者(政治家)が的確に誘導すれば、それなりに治まるものである」と思っていた著者にとつては、世界中での大騒ぎを足掛け三年も続けたこと自体が不可思議ではあるが、ほぼ沈静化した九月末の現在から見ると大騒ぎの分だけずいぶん古い話のように思われたりもする。

この三月に集めた資料には次のようなものがある。各行末の○は筆者の意見、印象。

- ① 企業家デル氏、しぶとく四〇年・パソコンの生産注文と配送のノウハウで一世を風靡したデル氏がノウハウの普遍化で競争力を失って、株式を非公開化。再生した後の戦略は...
- ② 先細るノーベル賞人材...わが国のノーベル賞の対象となる研究数は、減少の一路。起死回生

を狙う公的補助は有効か?!

③ 感染症研究・臨床を一体化...

アメリカのCDC(疾病対策センター)を模倣した日本版CDC『国立健康危害管理機構』(国立感染症研究所と国立国際医療研究センターの統合)を創る。研究・行政管理の縦割りによる対応の遅れに対処(役にたつのか)

④ 医療やAI革新生む...背かの理系分野に比較して、わが国では女性の活躍する場所が少ない。女性ならではの視点からの研究が新たな発見に繋がることも少なくないが、日本では男性が主役である傾向がまだまだに強い。情報を蓄積してこそ能力の発揮できるAIでは、提供される情報に偏りがあれば能力にも偏りがでる。性差を問わない人材育成が課題とされる。

⑤ ヒト・モノ・カネが逃げ出す

④ 医療やAI革新生む...背かの理系分野に比較して、わが国では女性の活躍する場所が少ない。女性ならではの視点からの研究が新たな発見に繋がることも少なくないが、日本では男性が主役である傾向がまだまだに強い。情報を蓄積してこそ能力の発揮できるAIでは、提供される情報に偏りがあれば能力にも偏りがでる。性差を問わない人材育成が課題とされる。

⑤ ヒト・モノ・カネが逃げ出す

国・中進国となった日本では、高質労働者の報酬が国際的に低下し、この労働者が海外流出、生産力の低下からが生産が海外流出、日本の金融機関も海外への投資として流出。この原因が保護されている中小企業の競争力低下による(潰れる中小企業の労働者はどうなる?! 難しい問題)

⑥ ルイスの転換点...低付加価値の農業労働力が高付加価値の工業へ移動し工業は発展するが、農業からの余剰労働力がなくなる。このときをルイスの転換点といい、日本では一九六〇年代後半と言われる。

⑦ ユーチューバー『戦国時代』: 動画サイト(YouTube、TIC TOK LINE、Twitter、ニコニコ動画)等の広告市場額は二〇二二年に五、六〇一億円(前年から三〇%増)、二〇二五

年には一兆円を越える見込みだが、ユーチューバーの収益は減少。

利用率は九二・五%だが、YouTubeでは八七・九%で、飽和してきている上、視聴者の好みの変化で、ヒットメーカーのユーチューバーでも、二〜三年前のような超ヒットがなくなり、視聴者数は減少、競争が激しくなっている(そりやそうだと、単純な内容に飽きない方が可笑しい)。

⑧ フリマ七、〇〇〇万会員へ難路: 家庭内の不用品総額は国内で四四兆円、その再利用をネットで仲介する、メルカリ(創業一〇年)が苦戦。アメリカでの苦戦が原因とのことである。現在年間二、一〇〇万人の利用者を七、〇〇〇万人にしようとする。地方行政とのタッグで廃棄品の再利用を期するが、再利用意識の高い層は約二〇年間二七・八%。アメリカの赤字累計五四〇億円)を国内で埋めている。撤退を考えていないとするが、株式市場から不安視されている。

⑨ 『分割管理』可能、壁はコスト高(注)
⑩ 株式非公開化(上場廃止、意思決定円滑)...CEOによる

意識決定の即時化で企業の生き残りをかける上場企業(中小企業を見習うか?)!

⑪ 日経新聞『春秋(コラム)』(日本のウクライナ、鉄道比較)...第二次大戦後間もない一九四五年に東北へ向けて奮戦した国鉄、二七四時間遅れながらも、人・物の輸送に働いた。現在も戦下のウクライナで鉄道が活躍している。したたかな、鉄道の役割を語るコラム。

⑫ さまよう『スーパードワー』: 一帯一路の環でインドネシア

が日本と対比しながら相手に選んだ中国の新鉄道事業は遅れに遅れ、避けられなかった国費をつぎ込みながら、まだ完成していない。その上、運営権を五〇年から八〇年に延ばされて、インドネシア政府は混乱。このような事例が四〇/一五〇件と増加。世界第二位の経済大国としての中国の評価が下がっている。

⑬ 廃衣料でアンモニア...繊維からなる廃衣料を原料として、CO₂を八〇%減する技術でアンモニアを作る方法をレゾナック・ホールディングス(旧昭和電工)と伊藤忠が開発する。一万トンの化繊から九、〇〇〇トンのアンモニアができる、という。(アンモニアは古くて新し

い素材で、明治から冷媒に使われ、現在は新燃料としても、期待される)

い素材で、明治から冷媒に使われ、現在は新燃料としても、期待される)

⑭ 日経新聞『春秋(コラム)』(安心と安全...家人が発熱したコラム筆者の体験。かかりつけの医者に行き、インフルエンザ・コロナでないことを診断されたときの安心感を「信頼」と絡めて語っている。『絶対安全』と原子村のヒトに言われていたが、三基の原発がメルトダウン。ウソで失った信頼喪失から這い上がる努力はどこに?!

すべてが三月中のモノで、日経新聞に由来する情報が多い。どの表題をみても面白い。③、④は、まだコロナ騒動が終わっていないと匂わせている(⑭も関連)。⑥、⑧、⑩は行き詰まっている経済を背景としているし、これもコロナ騒動に起因するところ、小とは言えない。昨シーズン、鳥インフルエンザの養鶏業界への被害と影響は甚大であったが、鳥インフルエンザに関して著者が注目したのは、⑨だけである(注)。⑫は、深刻化している中国の国際的な覇権獲得への危惧と、急ぎ過ぎる覇権獲得への意思と投資技術の未熟さからくる矛盾に対しての批判が主題であり、これから生

く、この労働者が海外流出、生産力の低下からが生産が海外流出、日本の金融機関も海外への投資として流出。この原因が保護されている中小企業の競争力低下による(潰れる中小企業の労働者はどうなる?! 難しい問題)

じると思われる大きな課題を示唆している。世界第二位のGDPを誇るこの大国が、今後どのような展開を求めるのか、その結果がどのようにグローバルな影響を与えるのかが気になる。三月上旬の日経新聞を中心とした情報だけで、これだけのテーマがある。一つひとつを深掘りすれば、それぞれ、この随想一回分をまかなえる。著者が興味を持たなかった情報を加えると総情報量はいかほどであろうか?!

これほどの情報過多の中で何を調べ、何を考えるか、という最も大事なことは、個人に任せられていることを忘れてはならない。

注: 鳥インフルエンザの発生に際して、大規模養鶏では一定の条件の元に「別運営扱い」として、区分管理するもので、ウイルスという、伝播性の強い病原体を扱うのに、このような体制が有効とも思えない。しかし行政側として、殺処分上どうしても欠かせない管理体制の変更であるなら、業界もサイエンスレベルでも納得できる「公開の議論の元になされるべき」と考える